

### Ⅲ 救急の概要

#### 1. 救急体制

##### (1) 救急業務実施体制

県内の救急体制は、昭和38年の消防法改正により救急業務が消防の任務として法制化されて以来、逐次整備充実されており、令和5年4月1日現在、県内全市町村において救急業務を実施している。

#### 救急業務実施市町村（義務実施）

各年4月1日現在

	市町村数	人口(人)	人口カバー率(%)
昭和40年	4	326,530	38.5
昭和50年	16	786,596	73.9
令和5年	39	1,298,946	100.0

##### (2) 応援協定による救急業務

近隣市町村等による相互応援協定、西名阪自動車道消防相互応援協定を締結して、救急業務を実施している。

#### 西名阪自動車道における救急体制

令和5年4月1日現在

	柏原 IC	香芝 IC	法隆寺 IC	郡山 IC	天理料金所	天理 IC
上り車線	<b>奈良県広域消防組合</b>					
下り車線	<b>柏原羽曳野藤井寺 消防組合</b>	<b>奈良県広域消防組合</b>				

##### (3) 救急隊員と装備

救急業務は、人命救助という重要な業務であることから、現在は、救急隊員の応急処置の内容が明確化され、また、救急隊員に対する教育講習も義務づけられたことにより、救急業務の内容が質的に向上している。

令和5年4月1日現在、救急隊員数は1,184名で、救急自動車数は82台である。

## 2. 救急医療体制

### (1) 救急告示病院

救急患者を受け入れるべき救急告示の病院及び診療所数は、令和5年4月1日現在、42機関である。

### 医療機関数

令和5年4月1日現在

	病 院			診 療 所	計	前年同期
	国 公 立	公 的	私 的			
救 急 告 示	11	3	28	0	42	42
そ の 他	30	18	30	1,058	1,136	1,145

### (2) 救急医療体制の整備

休日・夜間における救急需要の増大に対処するため、県では、1次救急医療については、市町村を中心に地域医師会の協力を得て実施し、2次救急医療については、市町村が病院群輪番制により体制を確保しているほか、救急告示病院が救急患者を受け入れている。また、3次救急医療については、県立医科大学附属病院に高度救命救急センター、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院に救命救急センターが設置され、救急業務の円滑、適正な遂行を確保するため、体系的な救急医療体制の確立を図っている。

## 3. 救急業務実施状況

### (1) 救急出場件数と搬送人員

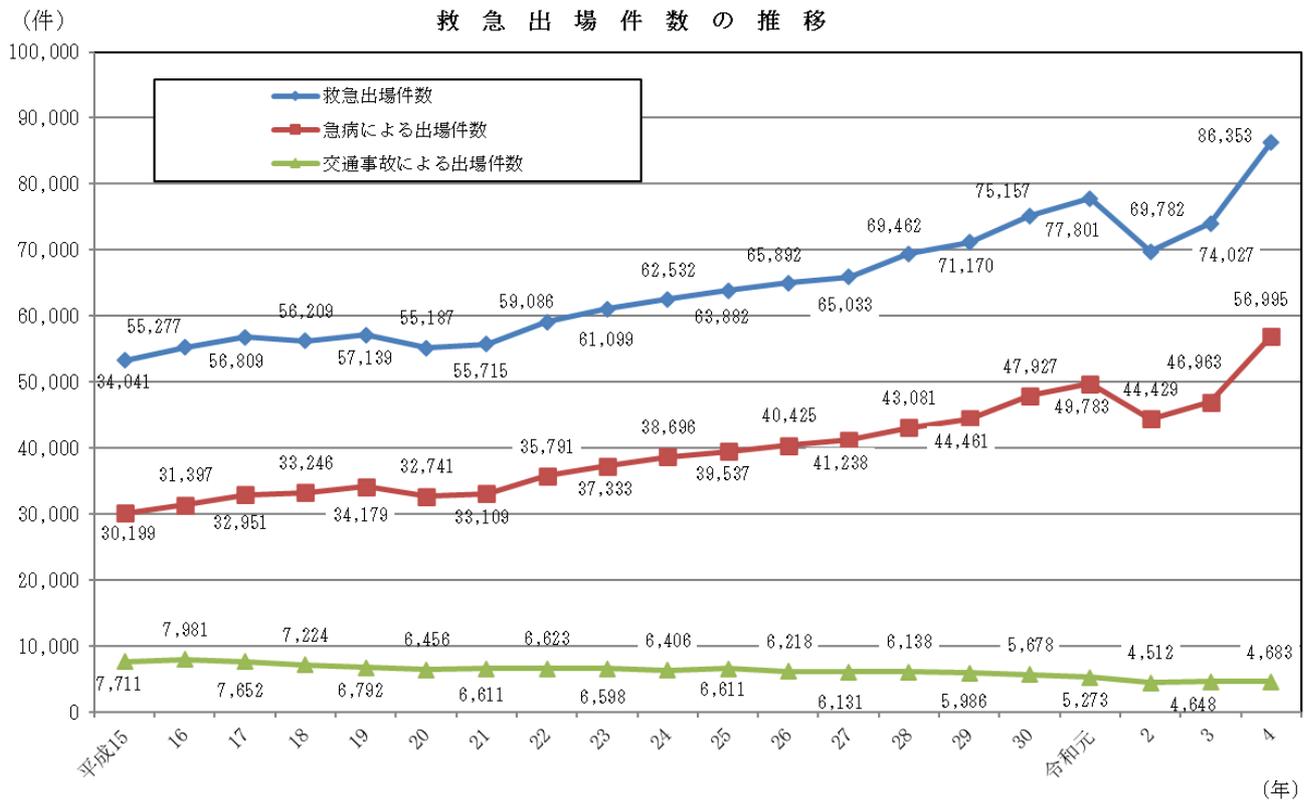
令和4年中（1月～12月）における県内の救急業務実施状況は、出場件数86,353件、搬送人員76,455人で、前年に比べ出場件数で12,326件（16.7%）増加、搬送人員で9,381人（14.0%）増加した。

また、人口1万人当たりの出場件数は665件で、1日平均では237件、約6.1分に1回の割合で救急隊が出場していることとなる。

### 救急出場件数及び搬送人員

（単位：件、人、%）

	救 急 出 場 件 数						搬 送 人 員
		うち交通事故によるもの		うち急病によるもの		人口1万人 当 た り 出 場 件 数	
		件数	構成比	件数	構成比		
平成30年	75,157	5,678	7.6	47,927	63.8	563	69,504
令和元年	77,801	5,273	6.8	49,783	64.0	587	71,228
令和2年	69,782	4,512	6.5	44,429	63.7	529	63,975
令和3年	74,027	4,648	6.3	46,963	63.4	566	67,074
令和4年	86,353	4,683	5.4	56,995	66.0	665	76,455



(2) 事故種別出場件数及び搬送人員

令和4年中(1月～12月)の事故種別出場件数は、急病が66.0%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

また、事故種別搬送人員も急病が66.2%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

事故種別救急出場件数及び搬送人員 (令和4年中)

(単位: 件、人、%)

	火災	自災	然害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自行損傷	急病	その他	計
出場件数	252	1	23	4,683	775	449	13,730	208	700	56,995	8,537	86,353	
構成比	0.3	0.0	0.0	5.4	0.9	0.5	15.9	0.2	0.8	66.0	9.9	100.0	
搬送人員	55	1	11	4,343	739	444	12,668	163	476	50,594	6,961	76,455	
構成比	0.1	0.0	0.0	5.7	1.0	0.6	16.6	0.2	0.6	66.2	9.1	100.0	

(3) 年齢別・傷病程度別搬送人員

令和4年中(1月～12月)の年齢別搬送人員は、高齢者が49,297人(64.5%)で最も多く、次いで成人20,535人(26.9%)となっており、新生児は149人(0.2%)となっている。

一方、搬送人員を傷病程度別にみると、死亡837人(1.1%)、重症4,651人(6.1%)、中等症33,435人(43.7%)、軽症37,494人(49.0%)、その他38人(0.05%)となっている。

年齢区分別、事故種別及び傷病程度別搬送人員（令和4年中）

（単位：人）

	合計	事故種別					傷病程度別				
		火災	交通事故	一般負傷	急病	その他	死亡	重症	中等症	軽症	その他
乳幼児等	3,764	0	100	918	2,511	235	4	46	789	2,921	4
少年	2,859	2	399	422	1,632	404	3	37	515	2,304	0
成人	20,535	23	2,436	1,840	13,491	2,745	81	921	6,387	13,133	13
高齢者	49,297	30	1,408	9,488	32,960	5,411	749	3,647	25,744	19,136	21
合計	76,455	55	4,343	12,668	50,594	8,795	837	4,651	33,435	37,494	38

（注）乳幼児等=満7歳未満、少年=満7歳以上18歳未満、成人=満18歳以上65歳未満、高齢者=満65歳以上。

（4）医療機関別搬送人員

令和4年中（1月～12月）の搬送人員のうち救急告示医療機関へ搬送された救急患者は74,427人（97.3%）で、救急告示以外の医療機関へ搬送された者は、2,023人（2.6%）となっている。

また、医療機関への搬送時間は、30分以上60分未満が51,494人（67.4%）で最も多く、30分までに搬送された者は、全体の12.9%（前年は18.4%）となっている。

医療機関別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	医療機関				接骨院等・その他	
		救急告示		救急告示以外		人数	構成比
		人数	構成比	人数	構成比		
平成30年	69,504	67,090	96.5	2,410	3.5	4	0.0
令和元年	71,228	68,951	96.8	2,276	3.2	1	0.0
令和2年	63,975	62,131	97.1	1,837	2.9	7	0.0
令和3年	67,074	65,312	97.3	1,759	2.6	3	0.0
令和4年	76,455	74,427	97.3	2,023	2.6	5	0.0

収容所要時間別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	10分未満	10～19分	20～29分	30～59分	60～119分	120分以上
平成30年	69,504	4	1,301	14,560	46,694	6,602	343
令和元年	71,228	5	1,363	15,618	47,698	6,237	307
令和2年	63,975	3	1,280	13,328	42,909	6,135	320
令和3年	67,074	3	927	11,403	46,164	8,150	427
令和4年	76,455	2	655	9,191	51,494	13,769	1,344
構成比	100.0	0.0	0.9	12.0	67.4	18.0	1.8

（5）転送の回数と理由

令和4年中（1月～12月）に医療機関へ搬送した患者のうち、転送を余儀なくされたものは280人、前年は189人で、そのうち2回以上されたものは、2人（前年1人）であった。

転送の理由は、処置困難が153件（54.6%）で最も多く、次いで専門外が53件（18.9%）となっている。

### 転送回数別患者数と転送の理由別件数

(単位：人、件)

	転送回数別患者数				転送の理由別件数						
	計	1回	2回	3回以上	計	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	その他
平成29年	283	283	0	0	282	9	54	1	0	175	43
平成30年	250	248	2	0	251	7	49	1	0	143	51
令和元年	225	222	3	0	222	13	44	2	0	125	38
令和2年	200	197	3	0	203	6	40	0	1	126	30
令和3年	189	188	1	0	186	12	40	0	0	106	28
令和4年	280	278	2	0	280	42	53	0	1	153	31

#### (6) 救急隊員の行った応急処置

令和4年中（1月～12月）の搬送人員のうち、救急隊員が何らかの応急処置を行った救急患者は76,287人（搬送人員の99.8%）で、その内容は、血中酸素飽和度の測定が99.3%で最も多く、次いで心電図、酸素吸入、被覆となっている。

#### 救急隊員の行った応急処置

(単位：件、%)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	構成比
	止血	1,362	1,373	1,314	1,204	
固定	3,227	2,861	2,526	2,450	2,484	1.0
人工呼吸	261	234	198	188	256	0.1
心マッサージ	49	48	24	16	40	0.0
心肺蘇生	1,285	1,295	1,271	1,418	1,560	0.6
酸素吸入	12,005	11,939	10,446	11,646	13,504	5.3
気道確保	2,120	2,016	1,816	1,999	2,114	0.8
保温	7,217	5,834	4,073	3,329	3,311	1.3
被覆	4,901	4,700	4,370	4,239	4,532	1.8
除細動	169	132	156	136	178	0.1
静脈路確保(輸液)	880	857	775	880	990	0.4
心電図	28,014	28,694	26,184	26,643	28,622	11.2
血中酸素飽和度の測定	68,507	70,306	63,279	66,424	75,762	29.6
その他	109,140	113,797	103,332	107,205	121,194	47.4
合計	239,137	244,086	219,764	227,777	255,922	100.0

#### (7) 高速自動車国道における救急業務

#### 西名阪自動車国道における救急業務の実施状況(令和4年中)

(単位：件、人)

実施団体	担当区域	出場件数	搬送人員
奈良県広域消防組合	天理インター～柏原インター(上り)	34	22
	香芝インター～天理インター(下り)		